

Title	後記
Sub Title	
Author	根岸, 毅(Negishi, Takeshi) 萩原, 能久(Hagiwara, Yoshihisa)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1997
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.70, No.2 (1997. 2) ,p.353- 353
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	奈良和重教授退職記念号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19970228-0353

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

後記

奈良和重教授は一九九七年三月末日をもって、慶應義塾大学定年制の規定に従い、法学部を退かれる。

学問的には合理主義を尊び、イデオロギーに呪縛された政治の脱神話を一貫して追及されてきた奈良教授であるが、現実の先生はそのイメージからはほど遠い。講義に没頭するあまり次の授業の始鈴にも気づかず、憑かれたように語り続ける先生はまさに「情念の人」であった。そのせいか、先生にまつわる神話も数多い。その大半は根も葉もないつくり話にすぎないのだが、奈良先生ならありうるかも知れないと思わせるところがあるから不思議である。

それでも奈良教授は「常識の人」であった。かつて自らの立場について「両義的な哲学的思弁とか幻惑的な弁証法の飛翔とはまったく無縁なコモン・センス」にすぎないと控えめに記されていた教授が最も忌み嫌ったのは、自己の学説をラディカルな銜奇性で飾りたて、自分が世人の窺い知れない究極的真理に到達したかのようにふるまう預言者・説教者のたぐいである。そして残念ながら、そうした預言者たちが昨今の政治思想の世界ではばをきかせているのである。

自らのそれも含め、すべてのものを前提から問い直し、人間精神をそうした前提から解放して新たな冒険に駆り立

てるようにする教授の知的営為は、「無知の知」の実践者としてソクラテスのそれに似ている。教授の教えは、(乗り越え不可能な偉大な学説としてではなく!)その自由で批判的な精神として、義塾の伝統とともに生き続けるにちがいない。その継承は私たちの知的義務である。

長年にわたる奈良教授の義塾でのご活躍とご尽力に感謝し、ここに充実した内容を持つ特集号の一冊を編み、御退職記念の論文集として献呈することができたことは、編集発起人として喜びにたえない。この記念号の刊行に直接間接にご協力いただいた方々に心からお礼を申し上げます。

奈良教授の御退職は、私たち発起人にとってひとときわ惜別の感に耐えないものがある。今後とも、これまでどおりの情熱をもって研究をお続けになり、わが国の学問の発展にさらなる頁を書き加えられんことをご期待申し上げます。末筆ながら、奈良和重教授の末永いご健康とさらなるご研究の発展を心よりお祈りしたい。

一九九六年十二月

奈良和重教授退職記念論文集編集発起人
法学部教授 根岸 毅
法学部助教授 萩原 能久